

ヒメオオクワガタの長生き記録

足立義弘

1983年9月11日、扇ノ山畑ガ平で採集したヒメオオクワガタ *Nipponodorcus montivagus* 1♂が、1985年8月10日まで、1年11カ月生存したので、飼育による長生き記録として報告しておく。

飼育には週1回程度、果実の小片や蜂蜜の薄めたものを与えていたほかは、容器内が乾燥しないように気をつけていた。また夏季の気温の高い時期には、風通しのよい涼しい場所に容器をおくようにしていた。

ヒメオオクワガタの生存記録については、滝沢 清(1986)による1984年9月12日から1986年7月31日まで生きた記録が知られている。筆者の記録は、かろうじてこれを上回っている。触角の一部と、右前肢と中肢の跗節が欠けてしまったが、二冬を越し、あしかけ3年生きぬいた。

参考文献

滝沢 清(1986) 2年近く生き続けたヒメオオクワガタ。月刊むし 189:37.

ヒメオオクワガタを灯火で採集

足立義弘

ヒメオオクワガタ *Nipponodorcus montivagus* は、他のクワガタムシと同様に、灯火に飛来することが知られているが、筆者も扇ノ山で、灯火で本種を採集しているのを報告しておく。

《採集データ》 1986年8月9日、扇ノ山畑ガ平、1♂1♀

畑ガ平は標高約1,000mの広い畑地で、高原野菜を作っている。灯火には、その畑の中から周りのブナ林へ向けて、白色、ブルー、ブラックライトの3種の蛍光灯を使用した。気温は低く、トレーナかヤッケを必要としたが、ヒメオオクワガタ以外にアカアシクワガタとミヤマクワガタ(いずれも雌)が数頭飛来した。